

## 令和7年度3学期修了式 校長講話

皆さん、こんにちは。校長の石丸です。

令和7年度の修了にあたり、一言述べさせていただきます。

### 「諸君 脱帽せよ」

この言葉は、ドイツの作曲家ロベルト・シューマンが1831年、音楽雑誌の論評に記したものです。「子供の情景」「クライスレリアーナ」「女の愛と生涯」の作品で知られるシューマンは、当時無名であったショパンの作品を初めて目にした際、その音楽的革新性と独創性に強い衝撃を受けました。若き天才の出現に最大限の賛辞を贈ったのが、この「諸君脱帽せよ」という言葉でした。その後、ショパンはパリを中心に活躍し、ヨーロッパ芸術音楽を代表する巨匠となっていきます。

話は変わりますが、本校生徒が示した仁義礼智の精神あふれる行動を紹介します。

去る冬の日、本校生徒が帰宅途中、道端で倒れている男性を介助し続けたという出来事がありました。数名の女子生徒が自転車で帰宅中、道端で倒れている男性を発見し、その場に居合わせた郵便局員と連携して救急車を手配。自分が着ている上着を脱いで男性の身体にかけ、男性を寒さから守るとともに、救急車到着までの間、声をかけ続け、励まし続けたそうです。寒い冬の日にもかかわらず、自分の時間を犠牲にし倒れている人の介助をするという行為、女子高生が見知らぬ男性の身体に自分の上着をかけるという行為、声をかけ続け男性を励まし続ける行為、その場にいた初対面の郵便局員と協力する行為等、どれも人としての温かさと勇気を示す素晴らしい行いでした。この行動はまさに、「人に寄り添い正しい行動を貫く強い心」を示したと言えるでしょう。

私はこの話を聞いたとき、結果や成果、効率を求める実利主義が支配しがちな現代社会にあって、これほど情に溢れ、これほど高潔な心を持つ生徒が本校にいることに深く感銘しました。この出来事こそ、シューマンの言葉、「諸君 脱帽せよ」と称すべき事例であったと、強く感じています。

私たちの社会には、家族、地域、学校、職場などさまざまな集団が存在し、よく知る人もいれば、あまり関わりのない人、まったく接点のない人まで、実に多様な人々と共存しています。「困った時はお互い様」という言葉がありますが、ともすると自分を優先し、人との関わりを避けてしまうこともあるでしょう。その中でこの生徒たちは、まさに「自分のことは後回し、目の前の困っている人を助ける」という品位溢れる高潔な精神を示しました。この行動は、ドライになりがちな現代における珠玉の輝きであると私は感じています。本事案は、生徒会広報誌でも紹介されていきましたので、すでにご存じだと思いますが、私の所見として改めて紹介させていただきました。

さて皆さん、一年間、お疲れ様でした。皆さんは本日をもって、当該学年の教育課程を

無事修了しました。心よりお祝い申し上げます。この一年、日々の学習をはじめ、行事、部活動、委員会活動、進路行事、特別活動、交友関係に至るまで、研鑽努力の毎日だったことでしょう。幾多の課題・困難を乗り越えてきた皆さんに深く敬意を表します。今は一年を終え、ほっとしていることでしょう。春休みの間、少しだけこの安堵に浸り、家族や友人と出かけたり、読書や音楽に親しんだり、地域を散歩してみたりと、心身を整える時間を持つのもいいかもしれませぬ。

4月から、皆さんは一つ上の学年へと進みます。2年生の皆さんは最高学年として、保谷高校を牽引するとともに、進路実現に向けて待ったなしの一年が始まります。

「努力しない自分より、努力する自分が上にいる」という気持ちで、誘惑や怠惰に負けず、雨だれ石を穿つ精神で勉学に励んでください。

1年生の皆さん、4月から下級生が入学してきます。保谷高校を一年早く知る先輩として、新入生を温かく迎え入れ、学業・行事・部活動などで率先垂範の姿を示してください。11月には台湾への修学旅行も控えています。事前学習や国際理解のプログラムを積み重ね、しっかりと準備して臨んでください。海外経験は必ず皆さんの視野を拓ける契機となります。

一年間、本当にお疲れ様でした。皆さん一人ひとりの成長を心から誇りに思います。来年度も、さらに飛躍する年になることを願っています。

東京都立保谷高等学校長

石丸昌延